

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171100112		
法人名	営利法人 (株)兵庫福祉保険サービス		
事業所名	松風の郷東浜		
所在地	鳥取県岩美郡岩美町陸上494		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	H26年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を利用している点を活かし、家庭的な雰囲気の中で生活を送っていただき、定期的に医師や看護師の健康管理を受け、安心して楽しく暮らしていただける環境を職員一丸となって作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古民家を利用した温かい雰囲気の事業所で、誰もが立ち寄りやすく清潔に整えられている。玄関に理念である「ゆっくり 一緒に 楽しく」という大きな書が飾られ、常に目に入るようになっている。中でも職員は「ゆっくり」を心がけ、慌ただしい時でも利用者のペースで、利用者の気持ちに寄り添った支援ができるよう努めている。食事も、手作りで温かいものが目の前で提供され、和やかなムードで楽しまれている。職員の方々は、利用者の笑顔にやりがいを見出し、誰もが生き生きと明るく、利用者本位の支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と一丸となり理念、基本方針を常に意識し、実践するよう努めている。	玄関を入るとすぐに「ゆっくり 一緒に 楽しく」の大きな文字の理念が目につく。またリビングにも掲示され、常に意識しようという意気込みが感じられる。	同一法人の他施設と理念が共通です。事業所の長をさらに生かして、東浜独自の理念を、職員のみなさんが一緒に考えられてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、海岸清掃や防災訓練等、地域の行事に参加している。	利用者の方には近所の方もあり、日常的に交流が行われている。 毎年海開きの前に行われる海岸清掃等、地域の行事には積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	希望があれば施設見学等受け付けているが、現状活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、地域住民、家族、町職員を交え現状報告や話し合いを行い、その中での意見をサービス向上に活かしていくよう努めている。	運営推進会議は2ヶ月に一度定期的に行われている。会議は2階の和室を利用し、おいしいお菓子とお茶を飲みながら、和気あいあいとした雰囲気で行われているため、意見も活発に出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の介護相談員の訪問にて事業所の実情やサービスの取り組みを伝え、気軽に相談できる協力関係が築けるよう取り組んでいる。	日頃から連絡を密に取り、情報交換を行っている。必要に応じていつでも相談できる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけているが、行動に危険が伴う場合、家族と話し合い安全面を優先している。	日中の施錠は行っていない。 身体拘束の研修を、毎月行う職員研修に取り入れ、すべての職員が正しく理解するように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に添ったマニュアルを作成し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が持ていないため、活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明を行い、理解納得していただいた上で同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族ともコミュニケーションをとり意見・要望を聞き、不安等の軽減を図るとともに課題・問題点をスタッフ会議で話し合いを行っている。	玄関の目につく所に意見箱を設置している。家族の面会時には積極的に話しかけ、意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。家族から出された意見等は職員で共有し、サービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議やミーティングを行い意見提案を出す話し合いの機会を設け運営に反映している。	管理者は日々職員の様子に注意を払い、必要があれば個別に面談を行っている。ミーティング時にも活発な意見が出され、サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職雇用による意識改善、資格手当や育休などの整備、処遇改善などの制度を活用し環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者においては資格要件を満たす者より順次、その他研修については希望者などが受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在管理者・看護師など、訪問時の様子を報告し、運営に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し本人と面会する機会を設け不安や要望等傾聴し、安心してサービスを受けていただけるよう、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設内の見学や、家族や関係者の話を伺う場を設け、意見や要望を傾聴し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望や意向を読み取り、適したサービス利用が行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて生活していただき、皆が協力し合って生活できるよう利用者の立場に立っての関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の際の同席や行事の参加を集い、本人と家族の関係を大切にしている。また、日々の生活の様子を報告し、情報の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会をいつでも受け付けている。また、利用者の地元へのドライブや買い物に出かける等の支援を行っている。	食べたいものがあれば一緒に買い物に行くなど、利用者の希望に添った外出支援が行われている。 友人や知人の方も気軽に訪ねて来られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように職員が間に入り行事やレクリエーションを行い、利用者同士が関わりあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、相談があればいつでも受けることが出来るよう話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、様子や会話等から本人の思いや希望、意向等の把握に努めている。困難な方に対しては、家族からの情報提供や生活歴をふまえ本人本位に検討している。	利用者の細かい表情の変化を見逃さず、言葉の端々からも気持ちをくみ取るよう努めている。 家族からも情報を聞き出し、利用者の意向に沿ったサービスが提供できるよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、これまでの暮らしの様子やサービス利用の経過、生活歴等の把握に努め、快適な生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方をケースに記録し、支援経過記録を記入している。健康管理に努め、状況に応じて看護師、医師に相談し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活から個々にある課題やケアの状況を把握し、毎月のカンファレンスで話し合い、本人や家族、看護師等の意見を反映させながら現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は3ヶ月に一度見直しを行っているが、毎月のカンファレンスでも話し合い、状態や家族の意見を聞きながら必要に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態変化、ケアの実践・結果、気づきや工夫を個別に記録している。またその情報を職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた対応のために、その時々話し合い適したサービス支援が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防・SOSネットワークへの連絡が出来るよう連携をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターの往診を月2回受けている。家族の希望があればかかりつけ医の受診を受けられるよう支援している。	車いすでの受診が家族では困難な場合は、病院までの送迎支援を行っている。利用者や家族の希望に添ったかかりつけ医で受診することができる。また同行受診後は家族へ電話等で報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報や気づきを定期的に看護師に提供相談し、利用者の日常の健康管理の支援と適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に医療機関との情報交換を行い、安心して治療、ケアが行えるようにしている。また、見舞いに行き様子や経過を把握し、退院後のケアに生かせるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合など、家族との連絡を密に取り、本人や家族の意向を尊重し、医師との相談も行い支援に取り組んでいる。	契約時には現在事業所でできることを説明している。現在看取りは行っていないが、職員とも話し合い、また医療機関との連携も図りながら、今後は家族の希望に添えるような支援の体制づくりを目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回防災訓練・避難訓練を行い有事に備えている。地域の防災訓練等にも積極的に参加している。	年2回防災訓練を行っているが、夜間の訓練ができていないため、今後取り組む予定である。地域の方々にも働きかけ、協力体制を築く努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、人としての尊厳を損なうことのないよう常に意識し、言葉かけや対応を行っている。	親しくなっても「ちゃん」付けで名前を呼ぶなどということのないよう、常に一人ひとりの人格を尊重した声かけをするよう、職員にも徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけなどで思いや希望を表しやすいよう心がけている。また自己決定できない人にも本人の希望にそうよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、希望にそうよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等本人に選んでいただいたり、好みになるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じて職員と食事の準備や片付け等行っている。献立も栄養バランスを考慮した上で希望にそえるよう努めている。外食や食事会も実施している。	手作りの温かい料理が目の前で出され、家庭的な雰囲気の中、職員も利用者とともに食事をとっている。旬の野菜や利用者の希望に添ったメニューにも配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量、食事形態を工夫している。水分量も確保できるよう本人の嗜好に合わせる等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせた支援を行っており、清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、声かけや誘導を行い排泄の失敗を減らし、トイレでの排泄が行えるよう支援している。	排泄チャック表を活用し、一人ひとりのリズムを把握し、誘導している。紙おむつからリハビリパンツへの自立に向けた支援も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、個々に応じた飲食物の提供や毎日の体操への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミング、体調などに合わせ、個々が入浴を楽しめるよう支援している。	一人ひとりの希望に添った日時に入浴してもらうことができる。利用者は入浴を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望に応じて午睡や休息していただき、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などを理解し、一人ひとりに合った服薬支援をしている。体調の変化にも気を配り、状況に応じて医師や看護師と相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた役割やレクリエーションを行い、張り合いや楽しみのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にそって、近所の散歩や庭先でのくつろぎの時間を持ち、近所の方との交流を図っている。また、希望があればドライブや買い物等にも出かけている。	年間行事の中に、外食やドライブなどを組み込み、利用者の楽しみの一つになっている。歩行の困難な方にも、車いすでの支援を行い、できるだけ戸外に出られる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にお金の所持の希望があれば、家族の合意のもと支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に構造上の問題があるが、その中で利用者に混乱や不快感のないように配慮し、利用者の作品や季節の花を飾る等、生活感や季節感を取り入れ居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用空間は明るく清潔に保たれ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。廊下や壁には、利用者の写真や作品、季節の風物が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が居間でくつろがれたり、ソファでゆっくり過ごされたりと、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族との相談のもと使い慣れた物や好みの物を配し、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者の使い慣れた品物を持ち込まれている。どの部屋も整理整頓され、居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力や残存機能を把握し、安全を考慮した上で、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		